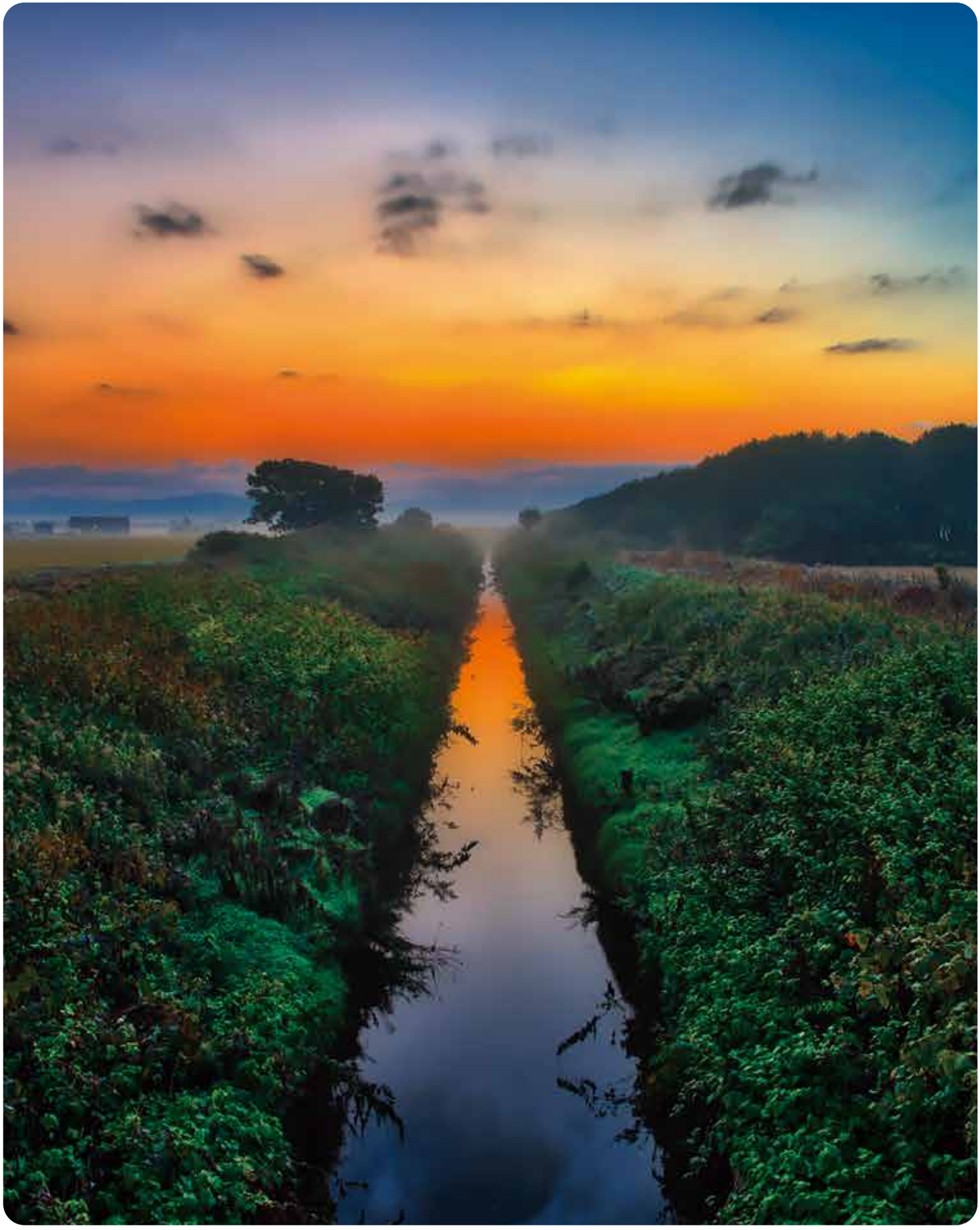
第9号

FD活動報告集



北翔大学
北翔大学短期大学部

目　　　次

１．学長挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　02

２．教育支援総合センター長挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　02

３．ＦＤ活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　03

４．ＦＤ活動取り組み
（１)第１回ＦＤ／ＳＤ研修会｢初任者研修会」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　04
（２)第２回ＦＤ／ＳＤ研修会｢学生の学修を加速するアクティブラーニング」　・・・・・　04
（３)授業コンサルテーション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　05
（４)第３回ＦＤ／ＳＤ研修会｢障がいのある学生の就労セミナー」　・・・・・・・・・・・　05

５．学外研修会参加状況
（１）「学生ＦＤサミット」参加報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　06
（２）「学生ＦＤの WA!!!!!!!」参加報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　07
（３）「つばさシンポジウム」参加報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　08

６．平成２８年度３月以降予定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　08

７．学生ＦＤ活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　09

８．編集後記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　09

１．学長挨拶

ＦＤ活動報告第 9 号の刊行によせて

北翔大学・北翔大学短期大学部
学長　西村　弘行

今日の高等教育において「教育の質保証」が大きな課題となっていますが、特に、平成 20 年度（2008 年）の中央教育審議会答申『学士課程教育の構築に向けて』の中で、「学生に何を教えたか」ではなく、「学生が、何ができるようになったか」が新たな指針になって参りました。これに伴って、「授業改善」等の FD が義務化され、今日、大学教育の質の向上が個人の「授業改善」だけでなく、組織的な取り組みとして求められるようになりました。

本学はこれまで、「公開授業」ならびに学生による「授業改善アンケート」を実施して参りましたが、一部の教員の授業改善がなされているにすぎず、組織的な改善が不足しておりました。そこで、平成 28 年度より本学の教学分野の議決機関である「運営企画会議」に「FD 推進事業」を位置づけ、教員の資質能力向上について「授業コンサルテーション」を導入するなど効果的対策を検討しています。

一方、平成 24 年度に採択された文科省「大学間連携共同教育推進事業」で、「学生の主体的学び」を推進する学生 FD 活動を本学は積極的に展開して来ました。本事業の終了後の来年度からは、近傍の数大学との連携のもと、学生を中心に、教職員とも協力して、「より良い大学」「より良い教育」「より良い地域」などのありかたについて学生独自の提言と活動を展開できればと考えています。FD 活動のより一層の発展をご祈念申し上げます。

２．教育支援総合センター長挨拶

平成２８年度報告書刊行に寄せて

教育支援総合センター長　小杉　直美

本報告書は平成 28 年度に実施した活動をまとめたものである。皆様にご高覧いただき、ご示唆を賜れば幸いである。

さて、2016 年 3 月 31 日大学設置基準等の一部改正省令が出され、2017 年 4 月から SD が義務化される。従前 SD は教職員以外の職員の職能開発として理解されることが多かったが、今回その対象は、「事務職員のほか、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれる」組織全体とされた。2008 年中教審答申『学士課程の構築に向けて』において SD が重要課題と示されて以降、教職協働による職員の大学運営への参画やその資質向上に向けた研修計画の企画実施が求められてきた。SD の義務化によって「計画的、組織的」な研修機会の設定や取組を行なうことにより、組織全体として教職員の資質向上を図る必要がある。大学教育の質的転換のためには FD が重要であることに変わりないが、設置基準第 25 条 3 に規定される FD を除く、大学運営に向けた能力や資質を向上させる研修機会の設定や取組が求められている。今後、本学においては大学運営の高度化を目的とした、FD を包含した SD 活動への取り組みが求められ、平成 29 年度に向けた枠組みの再構築ならびに研修や取組の吟味が肝要といえる。

以上、刊行にあたり、活動を振り返る機会とするとともに、次なる活動の深化に向けた思考の転換の機会としたい。関係教職員、学生の皆様に感謝申し上げ、寄せる言葉とする。

３．ＦＤ活動

日付	各委員会	学内活動（研修会他）	学外活動（研修会他）
4 月 1 日（金）	第 1 回 FD 支援委員会		
4 月 26 日（火）	第 2 回 FD 支援委員会	学生 FD 活動報告会(北翔アンビエント)	
5 月 31 日（火）	第 3 回 FD 支援委員会		
6 月 4 日（土）			“つばさ”FD 協議会(山形大)
6 月 21 日（火）		新入生歓迎翔タイム！（北翔アンビエント）	
6 月 8 日（水）		第 1 回 FD/SD 研修会「初任者研修会」	
6 月 28 日（火）	第 4 回 FD 支援委員会		
7 月 26 日（火）	第 5 回 FD 支援委員会		
6 月中旬～7 月下旬		前学期授業改善アン ケート調査	
8 月 6 日（土）～9 日（火）			大地連携ワークショップ in 山形 真室川町
8 月 23 日（火）～27 日（土）			大地連携ワークショップ in 平取
8 月 30 日（火）～9 月 2 日（金）			大地連携ワークショップ in 川崎
9 月 27 日（火）	第 6 回 FD 支援委員会		
9 月 6 日（火）, 7 日（水）			学生 FD サミット 2016 夏(札幌大学)
9 月 13 日（火）			“つばさ” 学生 FD 会議(山形大学)
10 月 18 日（火）, 19 日（水）			北海道地区FD･SD協議会総会・共同企画(北海道大学)
10 月 25 日（火）	第 7 回 FD 支援委員会		
11 月 15 日（火）		第 2 回 FD/SD 研修会「学生の学修を加速するアクティブラーニング	
11 月 21 日（月）		授業コンサルテーション	
11 月 26 日（土）			”つばさ”プロジェクトシンポジウム(明海大学)
11 月 29 日（火）	第 8 回 FD 支援委員会		
11 月上旬～下旬		「学習成果等アンケート」実施	
12 月 20 日（火）	第 9 回 FD 支援委員会		
12 月 10 日（土）			“つばさ”FD 協議会(山形大学)
12 月 17 日（土）			学生 FD の WA!!!!!!!!(京都文教大学)
1 月 20 日（金）		趣味トーク！（北翔アンビエント）	
1 月 21 日（土）			学生主体型授業「合同課題成果発表コンテスト」(山形大学)
1 月 31 日（火）	第 10 回 FD 支援委員会		
12 月中旬～1 月下旬		後学期授業改善アン ケート調査	
2 月 14 日（火）		第 3 回 FD/SD 研修会「障がいのある学生の就労セミナー」	
2 月 28 日（火）	第 11 回 FD 支援委員会		
3 月 7 日（火）		第 4 回 FD/SD 研修会「授業コンサルテーション報告会」	
3 月 21 日（火）	第 12 回 FD 支援委員会		
3 月 2 日（木）, 3 日（金）			学生 FD サミット 2017 春(山口大学)
3 月中旬		FD 活動報告第 9 号発行予定／学生 FD 活動報告書発行予定	

４．ＦＤ活動の取り組

（１）第１回ＦＤ／ＳＤ研修会「初任者研修会」

日　時：平成 28 年 6 月 8 日(水)
場　所：会議室 7B
１．教育支援総合センター長(小杉)
沿革、建学の精神、教育理念
２．学習支援オフィス長(西出)
本学の学習支援について
３．ＦＤ支援オフィス長(松澤)
本学のＦＤ活動について

新任教員 5 名を迎え、教育支援総合センター長の小杉先生より本学の建学精神と教育理念、沿革、高等教育制度の沿革及び大学の役割、目的に適う質の保証などについて説明、学習支援オフィス長の西出先生より本学の教育課程と学習支援における取組、最後に松澤 FD 支援オフィス長より本学の FD 支援活動の概要及び本学の FD 活動、学生 FD 活動などについて説明がありました。

参加した教員の方より、具体的な内容が聞けて参考になる有意義な研修会であったと話されていました。

（教育支援総合センター　FD 支援オフィス
千葉　道博）

（２）第２回ＦＤ／ＳＤ研修会「学生の学修を加速するアクティブラーニング」

日　時：平成 28 年 11 月 15 日(火)
16：30～18：00
場　所：722 教室　7 号棟 2 階
講　師：北海道大学　高等教育推進機構
高等教育研修センター
山本　堅一 特任准教授

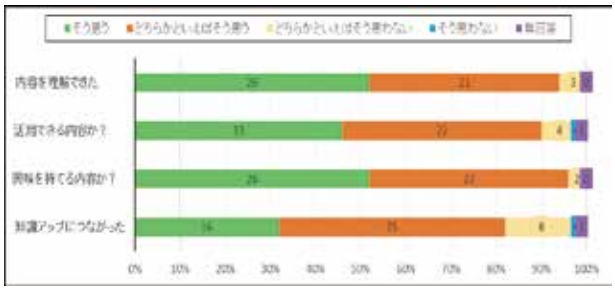
わたくし自身は、スポーツ教育学科の竹田学科長ならびに FD 支援オフィスの千葉課長とともに、山本先生の研究室を事前にお訪ねしていました。そのこともあって山本先生の御専門に関して概要をお聞きしていましたが、本学教職員全体への講演を拝聴して新鮮な感を改めてもつこととなりました。

各教科の担当者にとって今日的課題となっていることは、自身の授業を学生たちがどれだけ興味深く受け取ってくれているのかという疑問です。誰しも自分のことが一番よくわからないものです。その際に、まったく異なる視点から意見を頂戴できることと、学生たちの関心度や関心事項を知りえることは、今後の方向性を再考する大きな指針となります。

（生涯スポーツ学部　スポーツ教育学科
水野　信太郎）

平成 28 年 11 月 15 日（火）に、北海道大学高等教育推進機構高等教育研修センター
特任教授山本堅一先生による「学生の学修を加速するアクティブラーニング」の講演会が行われました。講演会では、なぜ今大学の授業においてアクティブラーニングが重要とされているのか。そして、具体的に授業に取り入れていくにために、どの様に実践していくことが必要なのかなど丁寧にお話頂き、実際の授業の質を向上させるための方法を学ぶことができました。今回の講演会の内容を参考にし、質の高い授業を目指し改善、検討する必要があると強く感じました。

（短期大学部　こども学科　小林美花）



参加人数 65 名（アンケート回答　50 名）

（３）授業コンサルテーション

日　時：平成 28 年 11 月 21 日（月）
授業科目：保健体育科教育法Ⅱ
科目担当：
生涯スポーツ学部　スポーツ教育学科
竹田 唯史　教授
コンサルタント：
北海道大学　高等教育推進機構
高等教育研修センター
山本　堅一 特任准教授

本年度、初めて授業コンサルテーションを受けました。これまで数年間、当該授業について、どのように進めるべきかを悩んでいました。学生はどのように授業を受け止めているのか、授業をどのように理解しているのかなどの意見を聞きたいと思っていました。

コンサルテーションを受けた結果、学生の学ぶ意欲が高いこと、学生は授業に深い知識を求めていること、一方的に教員が話す授業に不満を感じていること、スライドや映像の工夫、テストと課題の関係などについての意見を得ることができました。コンサルテーション以降、学生が主体的に考えることや、ディスカッションなどにより認識を深めるなどのアクティブ・ラーニングを取り入れて実施しています。

今後もよい授業となるよう改善をしていきたいです。　（生涯スポーツ学部　スポーツ教育学科
竹田 唯史）

（４）第３回ＦＤ／ＳＤ研修会「障がいのある学生の就労セミナー 」

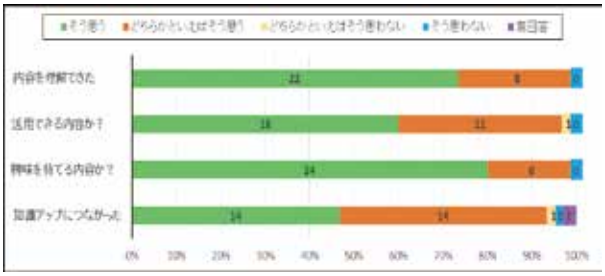
日　時：平成 29 年 2 月 14 日（火）
14:00～15：00
場　所：822 教室　8 号棟 2 階
講　師：北海道労働局

２月14日、北翔大学にて第３回ＦＤ／ＳＤ研修会「障がいのある学生の就労セミナー」に出席いたしました。

研修内容は、障害者雇用の現状と基礎知識や一般就労するために必要なこと、就労支援の専門機関の機能をテーマに、北海道労働局、障がい者就業・生活支援センター、若者サポートステーションなどの就職支援の現状に詳しい専門家を講師に迎えた大変充実した内容でした。

多様な背景を持つ学生に対し、きめ細やかな支援が必要とされる中、本学においても学生へのよりよい関わりへとつながる研修となりました。

（障がい学生支援室 入江 智也）



参加人数 35 名（アンケート回答　30 名）

５．学外研修参加状況

（１）「学生ＦＤサミット　2016 夏」参加報告

日　時：平成 28 年 9 月 6 日(火)～7 日(水)

場　所：札幌大学

札幌大学で開催された学生 FD サミットは、北海道で初めて行われた全国レベルの学生 FD の大会であり、運営は、学生が主体的にすることが重要です。実行委員長の札幌大学の加納くんを中心に北海道医療大学、北翔大学の学生コアメンバーが開催まで、会議を重ね、SNS 等を利用し、授業と両立しながら準備してきました。

教職員は、主催校である札幌大学の小山先生、事務職の森さん、北翔大学の事務職の千葉さんと私とで、連携を取り学生のサポートに徹して準備を行い開催にこぎつけた感じです。

いざ、サミットが始まるとあっという間に終わった感じです。細かな反省点は、多くありますが、学生たちは、200 人規模の全国的なイベントを自分たちのアイディアと運営で乗り切ったことに自信を持ちこれからの人生に大いに役立つのではないでしょうか？

私自身は、全体集合写真をドローン撮影したことに満足しています。

（教育文化学部　芸術学科　松澤　衛）

（ドローン撮影）

9 月 6 日、7 日にサミットが、東北を飛び越えて北海道で初めて開催されました。

参加人数は、約 200 名。最近のサミットの中で少ない参加者ですが、当初の予定通りに集まり、何とか開催に漕ぎ着けましたが、北海道という場所のため参加者の参加予想が難しい状況でした。

サミット全体としては、今までのない手作り感とちょっと異なる雰囲気のサミットで印象に残るサミットであったと感じています。

でも今年度に入ってからの状況を考えると開催ができるか不安でした。開催当日までバタバタと準備を行い、当日は、学生間の周知が伝わっていないなど多少のトラブルもありながら綱渡り状態で運営を行い、何とか 2 日間を無事何事もなく卒業式(閉会式)を挙行できたことは嬉しかったです。そして笑顔で学生たちが帰路に着かれたことは、今までの疲れが飛んだ瞬間でした。

このサミットを終えて運営に携わった学生たちにとって掛け替えのない時間を過ごせたと思います。

（教育支援総合センター　FD 支援オフィス
千葉　道博）

（２）「学生ＦＤのＷＡ!!!!!!!」参加報告

日　時：平成 28 年 12 月 17 日(土)
場　所：京都文教大学

2016 年 12 月 17 日（土)、京都文教大学にて「学生 FD の WA!!!!!!!!」に参加しました。内容は以下 3 つのプログラム。

① 「ボディ・ワークショップ」…5 人のグループになり 30 分間打ち合わせした後、劇をします。ただし、言葉で会話することができない状況に制限されてしまいました。言語を制限された活動です。
② 「ブラインド・ワークショップ」班になり、全員が目隠しをしてインタビュー形式で質問側と回答側に分かれます。全員お互いの表情が見えないまま、声だけを聞いて話し合います。視覚を制限された活動です。
③ 「サイレント・ワークショップ」班ごとにパズルのピースが配られ、そのピースを使い、５人でそれぞれ同じ形を作り上げるというものです。意思伝達を制限された活動です。

3 つのワークを通して日常でどれだけ五感やコミュニケーションに頼っていたのか思い知らされました。コミュニケーションすることができる人間に生まれたからこそ、積極的にコミュニケーションを図っていかなければもったいないと感じました。

（教育文化学部　教育学科　3 年 松井　亮太）

京都文教大学主催の「学生 FD の WA!!!!!!!!」に参加しました。参加学生のほとんどが京都の大学に通う学生であり、先生方も含め地域の違いや大学の特色、FD の活動内容などを互いに共有しました。

企画内容は 3 つのプログラム構成となっており、『ボディ・ワークショップ』は、言葉を使わず、表情や身振り手振りで 3 分間の即興劇を披露するといった内容。普段いかに言葉に執着しているかということを改めて考えさせられました。

『ブラインド・ワークショップ』では、弱視でほとんど目が見えていない学生がこのワークショップを担当し、「自分の目が見えないことは私の中で障害だとは思っていない。見えないからこそ楽しいこと、また見えるものがある」と話していたのが印象的であり、自分の日常を考えさせられました。『サイレント・ワークショップ』は、グループでバラバラのピースを組み合わせると同じ形が出来上がるといった内容。ルールは喋ること、ジェスチャーの禁止。

日常生活に置き換えやすい内容で、相手の表情や雰囲気を感じ取り、何を求めてるのかを普段から意識することを考えさせられました。

（教育文化学部　教育学科　3 年 松田亮太郎）

（３）“つばさ”プロジェクト シンポジウム「大学間・地域連携による教育改革の可能性」

日　時：平成 28 年 11 月 26 日(土)
場　所：明海大学

浦安の明海大学で行われた“つばさ”プロジェクト シンポジウム「大学間・地域連携による教育改革の可能性」に参加して、つばさプロジェクトのメインである大地連携について今年度行われた、札幌大学、日本女子大学、山形大学、韓国での大地連携ワークショップの報告が行われた。

５年の総括として、大地連携ワークショップは、参加大学がそれぞれの感じたことの中に学生の確かな成長があったのではないかということである。

本学もとても小さいがこの大地連携ワークショップの芽ができたように感じているこれを自大学でどう育てていくかが今後の課題であり、学内でどう広げていくかが重要であると感じた。

（教育文化学部　芸術学科　松澤　衛）

平成 28 年度　大地連携ワークショップを実施校の報告が行われました。

初めに札幌大学が平取町、日本女子大学は、川崎市、山形大学は、真室川町、韓国の順に各ワークショップの実施内容、実施感想の報告がありました。それぞれの大学での準備及び苦労話など私たちが実施した阿寒のワークショップと重ねながら聞いていました。

その中で日本女子大学は、学生サポータが登壇し、ワークショップを実施するにあたり、企画、準備運営についての苦労話などあり大変だったことが伝わりましたが、実際に参加した学生の感想が、ほしかったと感じました。

また、韓国については、参加学生の意欲と事前学習がよくされており勉強している感じを受けました。その他に韓国在住の多国籍の人と触れ、多文化について学べたことについての報告がありました。

今回に限らず大地連携ワークショップは、参加した学生の意欲を含め、始まる前と後の変化があることに気づき大学で味わうことが出来ないワークショップの必用性を改めて感じました。

（教育支援総合センター　FD支援オフィス
千葉　道博）

６．平成28年度3月予定

・学生 FD サミット 2017 春参加

日　程：平成 29 年 3 月 2 日(木)、3 日(金)
場　所：山口大学
参加者：教員 1 名、学生 2 名

・第４回ＦＤ／ＳＤ研修会

「授業コンサルテーション報告会」

日　時：平成 29 年 3 月 7 日(火)
14:30～16:00
場　所：822 教室　8 号棟 2 階
講　師：
北海道大学　高等教育推進機構
高等教育研修センター
山本　堅一　特任准教授
生涯スポーツ学部　スポーツ教育学科
竹田 唯史　教授
研修会内容：
「授業コンサルテーションとは」
北海道大学　高等教育推進機構
高等教育研修センター
山本　堅一　特任准教授
「授業コンサルテーション実施報告」
生涯スポーツ学部　スポーツ教育学科
竹田 唯史　教授
「授業コンサルテーション実施ビデオ上映」
「授業コンサルテーション実施評価」
北海道大学　高等教育推進機構
高等教育研修センター
山本　堅一　特任准教授

７．学生ＦＤ活動

私たち学生 FD 団体”北翔アンビエント”は、発足して 4 年ほど経ちますが、年々「学生が主体となって何かをする」という活動が増えてきたように感じています。

その背景には、自大学の教員や職員の方々の協力により、他大学が主催する FD に関するイベントやサミット等に参加させて頂いたことによって様々な刺激を受けてきたからです。

FD に関するイベントやサミット等に参加させて頂くことによって最初に得られる利益は参加した学生自身に大きく現れます。

自身の新しい価値観や今まで考えたことない考えを発見することが出来たりします。

今後は、その利益を自大学の学生、教員や職員の方々に様々な形で還元していくことに力を入れていきたいです。

（教育文化学部　教育学科　3 年　直江　隆志）

８．編集後記

北翔大学・北翔大学短期大学部の FD 活動報告を、今年度も「活動報告集」として発行いたしました。

本学が FD 活動に取り組み始めて 13 年が経過し、私が FD 支援委員会の委員長になってから丸 6 年が経ちました。

今年度は、文部科学省の大学間連携共同教育推進事業「東日本広域の大学間連携による教育の質保証・向上システムの構築」の加盟校として、5 年目を迎え、各地で最後の大地連携ワークショップが開催されました。

学生 FD 組織「北翔アンビエント」は、つばさプロジェクトを始めとする他大学でのイベントに積極的に参加し、札幌大学で行われた学生 FD サミットを成功させ、自己研鑽をつみ、自分たちがどんなことができるかを悩んだ 1 年でした。

しかし、同時に組織的な FD 活動とは何か。仲間をどのように増やし、展開すれば、大学の教育、大学全体が良くなるのか。悩み続けた 1 年間でした。

投稿くださった教員の皆様に感謝申し上げますと共に、報告集をご覧いただき、学びを共有し合い、更により良い大学作りの為に活用ください。

（ＦＤ支援委員会　委員長　松澤　衛）

発　行　日：平成29年３月31日
編集・発行：北翔大学・北翔大学短期大学部
FD支援委員会／FD支援オフィス
〒069-8511　北海道江別市文京台23番地
ＴＥＬ：011-386-8011㈹　FAX：011-387-6260
ＵＲＬ：http://www.hokusho-u.ac.jp
E-mail：fdoffice@hokusho-u.ac.jp

委　員　長：松澤　　衛（教育文化学部　芸術学科）
副 委 員 長：千葉　道博（教育支援総合センター　FD支援オフィス）
委　　員：水野信太郎（生涯スポーツ学部　スポーツ教育学科）
岡元眞理子（教育文化学部　教育学科）
小林　美花（短期大学部　こども学科）

（表紙写真撮影：教育文化学部　芸術学科　准教授　松澤　衛）